

**文教施設づくりに役立つ
最新設計事例・技術製品
資料集 2015**

一般社団法人 文教施設協会

事例名称 国立大学法人 愛知教育大学 教育未来館

《外観／内観》



《コンセプト／特徴》

本建物は、これまで学内に分散していた大学院修士課程、教職大学院及び共同教科開発学専攻（博士課程）を集約して、教育研究の一層の充実を図ることを目的に整備されました。

建物は正門の正面、小高いキャンパスへ向かうメインアプローチに沿って位置しています。この立地条件からキャンパスのランドマークとしてのデザインや、キャンパスへ向かう動きの中でのデザインが重要になります。大学を訪れる人を柔らかく導くように北側のメイン道路に沿って大きな弧を描くガラスの曲面形状によるファサードとし、このガラス曲面が自然と調和しながら緩やかに伸びていく姿がキャンパスの新しいランドマークとなるようにしました。

環境計画では、北面に設けた全面ガラスウォールによる安定した光量の確保や、外部から吹抜け上部へ抜ける自然な空気の流れを活かした自然換気システムの導入、全館LED照明の採用などにより低炭素化を推進しました。屋上に10kwの太陽光パネルを設け、1階エレベーターホールの電力モニターで発電量や消費電力の「見える化」をしています。また、土中・地下ピットに設けたエアダクトによる熱負荷低減を行いました。

《発注者の要望をどのように対処したか》

学修活動の「見える化」を推進するため、ガラスパーテーションによる開放的で見通しの良い講義室としました。外装は北側のメインアプローチに面する部分を全面ガラスウォールとし、安定した光量と立地条件を活かした眺望が得られる空間としました。

《どのような補助を活用したか／補助活用内容》

施設整備費補助金

《設計／施工で留意したこと》

学生・教員のコミュニケーションや知的創造活動を誘発する「場」として、明るく開放的で居心地よい空間を目指しました。

《設計者》

愛知教育大学財務部施設課、株式会社総企画設計、株式会社総合設備コンサルタント

概要			
建物名称	愛知教育大学 教育未来館	敷地面積	440,648.62 m ² (学校用地)
所在地	愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢1	建築面積	1,071.55 m ²
建築主	愛知教育大学	延床面積	3,054.98 m ²
施工	矢作建設工業株式会社 東邦電気工業株式会社 株式会社トーエネック	建ぺい率	9.03% (全体)
設計期間	H25年4月～H25年7月	容積率	20.17% (全体)
施工期間	H25年9月～H26年8月	構造規模	鉄筋コンクリート造3階
工事費 (税込・円)			
建築工事	503,019,000円	m ² 単価	約165,000円
電気設備工事	73,754,400円	m ² 単価	約23,000円
機械設備工事	94,992,000円	m ² 単価	約30,000円

平面図

《平面図》

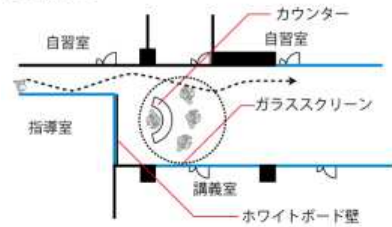
Exterior Design

曲面状のガラスウォールに映り込む四季折々の青空、夕焼け、樹木とそこから透けて見える内部の活動の様子がファサードデザインとなる。



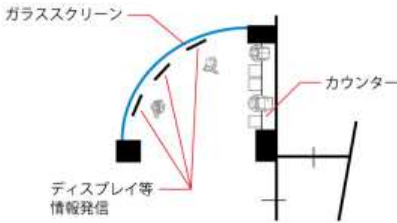
Hall

学生・教員のコミュニケーションアクティブラーニングの場。各所にホワイトボードやカウンターを配置し能動的な学習を誘発する。



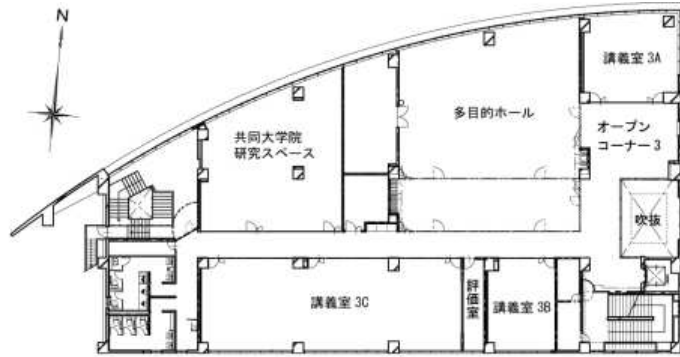
Open Corner

学科・年齢・性別などの垣根を越えた交流を促す場。



Lecture Rooms

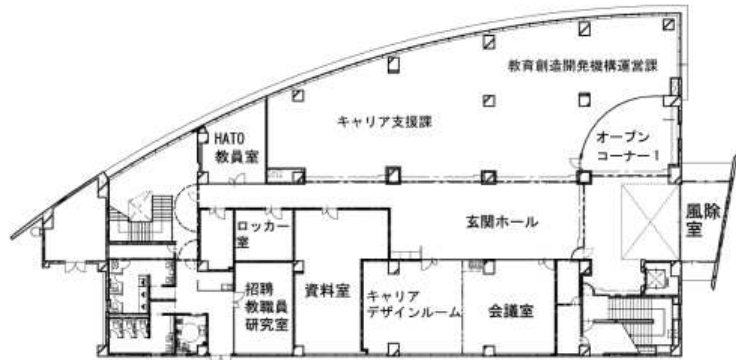
ガラスパーテーションによる開放的で見通しの良い講義室。学習活動の「見える化」を推進



3F Plan



2F Plan



1F Plan

